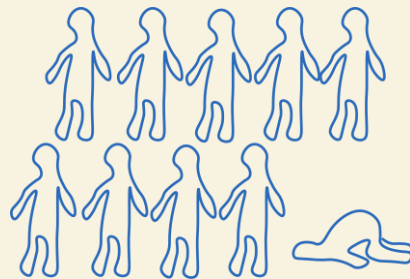

開発コンセプト

社会背景

日本人の約10分の1が腰痛の悩みを抱えていると言われている現在。腰の悩みは社会的に大きな問題となっています。

そのため、腰を守るアシストスーツが注目されるようになりました。足は安全靴、手は手袋、頭はヘルメットで保護されていますが、腰の対策はどうだろうか？という問題を解決するために開発がスタートしました。



現場の声をカタチに

腰痛問題は深刻であるにも関わらず、腰を守るため腰ベルトやコルセットの使用は個人の裁量でした。2000社を超える現場のニーズや意見をもとに開発された、ユーピーアール株式会社Bb+シリーズの「Bb+PRO II」をモデルとしてオリジナルオーダーメイド商品として2023年Place2.7が誕生。



ハイパワーであるが故の問題点

アシストスーツは主に電力式・空気圧式である動カタイプ（アクティブタイプ）ゴム式の非動カタイプ（パッシブタイプ）の2種類があります。

約10年間、国内メーカーのアシストスーツを数多く取り扱いをしてきましたが、動カタイプはハイパワーである反面、高価格、高重量、動きづらいという声もありました。

企業導入を検討した際、予算的に購入台数に制限が出たり、労働環境の改善に偏りができてしまうといった導入に至るまでのハードルの高さがありました。

そういった課題も踏まえ、軽くて、動きやすく、程よいアシストカの商品に注目しました。

